

第2回 明治大正の史跡めぐり
講演会と遺跡見学

深川造船所跡
を歩く

主催 佐賀近代史研究会
協賛 大川観光協会
後援 大川市教育委員会、佐賀市教育委員会

参加費
500円

資料代と事故損害
保険料として
[定員150名]

平成25年 10月19日 土 ◎受付時間 9:10~9:40

集合・講演場所

国土交通省筑後川河川事務所大川出張所
筑後川交流館「はなむね」 ※裏面の地図を参照してください。
大川市大字向島2631-2

見学場所 福岡県大川市若津地区

説明 「深川造船所のもつ歴史的意義」
9:40~10:10 佐賀近代史研究会会員・佐賀大学名誉教授 長野 暉

講演 「深川商店から深川造船所へ」
10:10~11:40 特定非営利活動法人大川未来塾理事 本間 雄治氏

見学会 本間氏の案内でウォーキング
11:40~12:40

昇開橋の稼働時間 (平成25年7月末現在)

9:05~ 9:35	10:05~10:35	11:05~11:35	12:05~12:35
13:05~13:35	14:05~14:35	15:05~15:35	16:05~16:35

深川造船所

深川造船所は、九州第一の大河川である筑後川河口の福岡県大川市(旧大川町若津地区)に所在し、屹立する巨大クレーンが、対岸の諸富に位置する同系列の佐賀セメントの煙突と共に壮観を呈し、明治～大正期にかけて同流域の近代産業発達のシンボルであった。

佐賀財閥の雄と称される深川家が明治15年同地に造船所を設置し、薩摩藩砲兵工場の諸機械を購入して創業。盛時には2千トン級の大型船舶の建造・修理、陸上機械では軽便鉄道用蒸気機関車、炭坑機械、発電所の送水鉄管などを製造していた。第1次世界大戦の好景気で急速に拡大し、またその反動を受けて休業に追い込まれた。九州では三菱長崎造船所に次ぐ大造船所であった。現在、その地に往時を偲ぶものはない。

最近、同造船所に関する新しい資料や大量の写真が相次いで発見されて、その全容が解明されつつある。

今回の講演会では、同造船所について資料の発掘など精力的に研究されている本間雄治氏を講師に招き、最新の調査結果の発表と現地案内をしていただきます。併せて佐賀近代史研究会の長野暹佐賀大学名誉教授が深川財閥の歴史的意義について説明します。特に本間氏は、深川家を「若津・佐賀財閥」と称すべきであると主張されており、今まで明らかになっていなかった深川家と筑後地方との関係の深さを知る好機会であろうと思います。

○ 申込方法

氏名、住所、電話番号を明記の上、はがき又はメールでお願いします。

はがきの宛先 〒849-1201

佐賀県杵島郡白石町牛屋5599-2

佐賀近代史研究会 藤井鹿男

メールアドレス sagakindaishi@yahoo.co.jp **当日受付可能**

参加受付期間 平成25年9月24日(火)から10月10日(木)まで

問い合わせ先 TEL.0954-65-2803 (藤井)

※電話による問い合わせは19時から21時の間(夜間)にお願いします。
※お知らせいただいた個人情報はこの講演会・探訪会のみを使用します。
※講演会場 定員150名。当日受付可能ですが、資料準備のためなるべく事前申し込みをお願いします。

○ その他

- 天候によっては見学会を中止する場合があります。雨天でも講演会は実施しますが、荒天の場合は講演会も中止します。
- 駐車場、受付は講演会場の「はなむね」です。駐車場が狭いため地元の方はなるべく徒歩でお願いします。
- 現地は一旦停止や一方通行個所が多く、道幅が狭いところが多いので、車でご来場の方は十分注意してください。

○ ウォーキングの際の注意事項

- ウォーキングに参加される方は歩く服装で。
- 道路が狭い場所もありますので交通マナー、ルールに従って歩いてください。
- 私有地には立ち入らないようにお願いします。



国土交通省筑後川河川事務所大川出張所
筑後川交流館「はなむね」



バス

- JR 久留米駅から大川橋行バスに乗車…………… 約 60 分
大川橋バス停下車 徒歩 20 分
- 西鉄大善寺駅から大川橋行バスに乗車…………… 約 35 分
大川橋バス停下車 徒歩 20 分
- 西鉄柳川駅から佐賀駅バスセンター行バスに乗車… 約 30 分
大川橋バス停下車 徒歩 20 分
- 佐賀駅バスセンターから西鉄柳川駅行バスに乗車… 約 40 分
大川橋バス停下車 徒歩 20 分



自動車

- 九州自動車道 八女ICより車で…………… 約 45 分
- 九州自動車道 みやま柳川ICより車で…………… 約 30 分
- 長崎自動車道 佐賀大和ICより車で…………… 約 50 分

